「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部創立10周年に寄せて

96

リレーエッセイ

「住めば都」

大船渡市盛町　伊藤　誠

海がキラキラ輝いている。早春の太陽がまぶしい。三陸の風景は明るい。社会人としての人生が始まる。明日から大船渡営林署勤務である。

この年、東京・大阪間に東海道新幹線が開通し、東京オリンピックが開催されるなど日本は新たな成長へと歩みだしていた。

私は勤務して二年目に住田町上有住の大洞地区にある上有住造林作業場に配属された。土倉の国有林にスギやアカマツ、カラマツを植えるためである。この造林作業場が私の仕事場だ。

造林作業を行う人たちは山泊（さんぱく）と言って造林する山の作業宿舎で泊まった。当時作業員は十四人、炊事の方が二人であった。年二回、春と秋に造林し、夏には下刈を行う。この年は二十鈴植林をした。

初めて山泊を見たのは、勤め始めて間もないころで、作業員の給料を届けるために訪れたときだ。ヒノキの総二階建てで、二階部は宿泊場所、一階部は造林作業の様々な道具がおさめられていた。

うす暗く、低く、狭い。「こんなところ嫌だな。よくもこんなところにいるな」と思った。一年後自分がここの担当になるとは思いもよらなかった。建物に驚いていた自分であったが、初めて接する地域の人たちは温かで、親切であった。人情があった。

当時ニホンジカはほとんどいなかった。よく見かけたのはカモシカである。森林浴や自然観察会での中核施設である「あすなろ山荘」のあたりでよくサルが遊んでいた。

二十代のころは、職場の仲間や大船渡市内の働く仲間たちとよく登山した。「山に行くか」「行くべ」。阿吽の呼吸で即決する。五葉山の頂上部からの眺めは秀逸で、西には遠く奥羽山系を、東には眼前にリアス式海岸が広がる。

五葉山の素晴らしさは頂上部の眺望に留まらない。その山麓にも魅了される。檜山の奥、標高八百m付近の森林浴道沿いにはブナやナナカマド、ヒノキアスナロ、トチノキなどがうっそうと生い茂る。そこにいるだけで気持いい。

「五葉山森林浴丸ごと体験」は森の魅力を体全体で感じていただこうと実施された。平成三年八月三日、初めての森林浴の行事が行われ、私は森の案内人としてこの行事に参加していた。

特に印象深いのは、平成六年八月七日に行われた「日本宇宙少年団国際ジャンボリー94～大自然丸ごと体験～」である。

私は韓国の子どもたちを案内した。通訳を介しての説明であるが、目が生き生きしている。興味、関心、好奇心に満ちた目である。森林浴や自然観察会で森を案内するのだが、そのたびに参加者に教えることで学び、伝えることで感じ取るものがあった。森林浴の行事を通じて私自身が育てられたのである。

高校を卒業し、大船渡に来て四十七年になる。職場の先輩や後輩、地域の方々、造林作業場で苦楽を共にした方々などとの出会い、そして交わり。私はこの地域で育てられてきた。

「住めば都」。今、自分の歩みを顧みて思うのである。

【執筆者プロフィール】一九四五年、宮城県大崎市（旧古川市）生まれ。大船渡市盛町在住。三陸中部森林管理署（旧大船渡営林署）に四十二年間勤務。

「五葉山森林浴丸ごと体験」など五葉山麓での森林浴や自然観察会で温かみのある、じんわりした説明、解説で参加者を魅了。

森林浴や自然観察会で参加者を迎え入れる五葉山麓森林浴公園